

触宴



大和のどか
陸上部二年

彼女はつい最近
この土地に
引っ越してきた

大和センパイ
先失礼しまーッス

おー

おつかれー

センパイは
まだ残って
走るんスか？

あー、うん


大会近いし

あの……
夜までには
帰って
くださいね……？

この土地には
ある都市伝説がある


夜遅くに
山に入っては
いけない

※この物語はフィクションです。
実在の人物、団体、事件等とは一切
関係ありません。



大昔、
この土地の平和を願って
若い娘を山奥の祭壇に
奉られている
土地神に捧げる
風習があったらしい

捧げられた娘は
土地神の御身体と交わる
戻ってきた娘も
戻らなかつた娘もいた
—いつしか、その風習は廃れ
消えていった



—ある時期から
山奥や山の近辺で
失踪事件が多発した
犯人は不明
消えるのは
決まって若い女性

かつての風習に
なぞらえて
いつしか都市伝説として
噂されるようになった



土地神様に攫われた、と





…それにっ…

この生き物
さつきから…
変なとこばっかりっ…

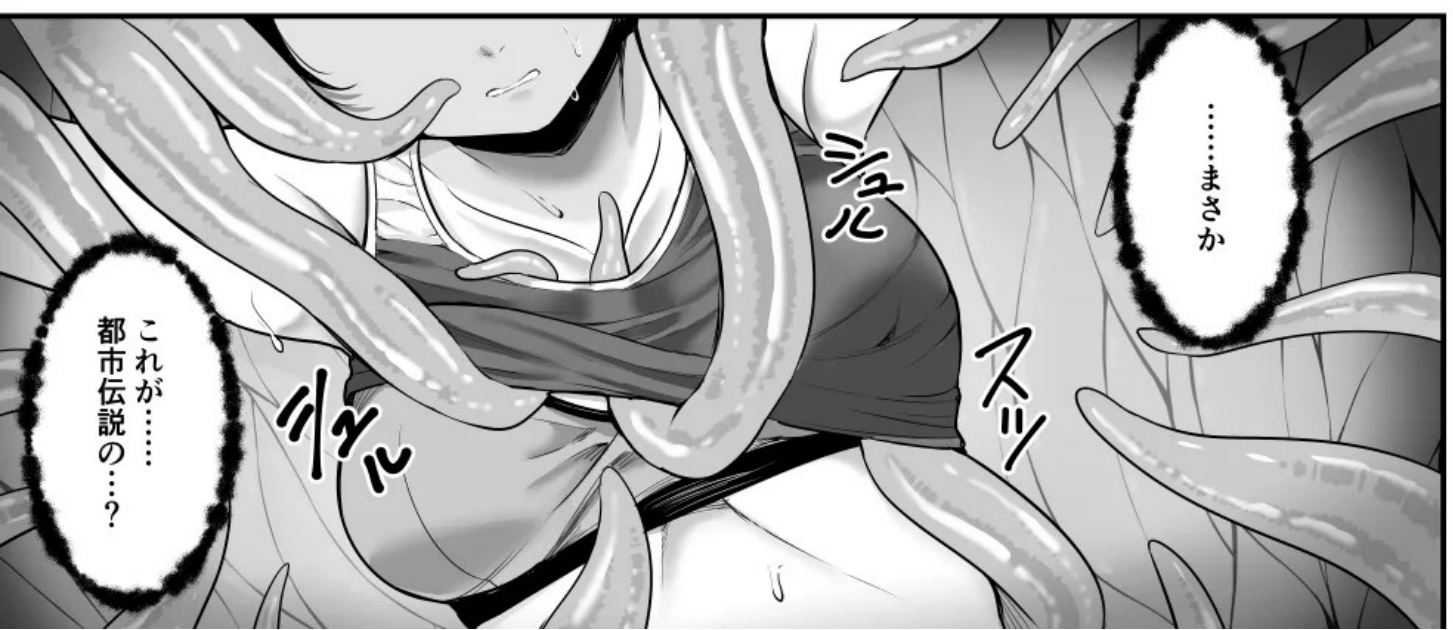


…っというか
どっ!? どっ!?

っ…だめ……!
身動き取れない……っ!



捧げられた娘は
土地神と交わる



……まじか

これが……
都市伝説の……?

だったら……
なんとかして
逃げないと……

このままじゃ……

私

犯されー

やっ……







……でも

こんなの……
逃げられるわけ……



……

ア
ル



気持ち悪い……

ア
ロ
オ

ア
ル



さっきから……

なに……
この変な煙……



……それに

ア
ル
ウ





しゅん
しゅん

しゅん
しゅん

ああ……

わっ……

感じてる……

……私

このまじじゃ……



ぬちゅっ
ぬちゅっ

私っ……
もう……っ

わっ

わっ

ちゅっ
ちゅっ

しゅん
しゅん

しゅん
しゅん





こん...なっ

あ!?

嫌なのに...!

気色悪いのに...!

ズッ
グッ

ズッ
グッ









……なに

なにか…出された…?
でも…もう……

終わー

わっ…

しゅん
びしょ

びしょ

びしょ



……さ……



びしょ
びしょ
びしょ

……もう
逃げられないなら……

ヒッ
キョ
ヒッ
キョ

じゅわん
じゅわん

ヒッ
キョ
ヒッ
キョ

ヒッ
キョ
ヒッ
キョ

じゅわん
じゅわん

ヒッ
キョ
ヒッ
キョ

だったら……いっそ……

じゅわん
じゅわん

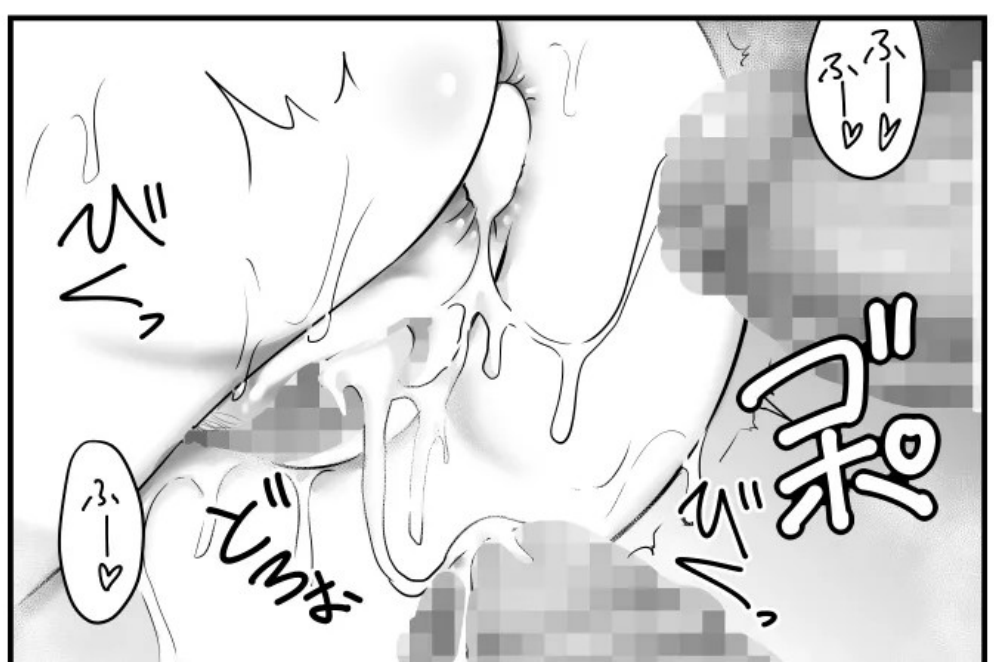
じゅわん
じゅわん

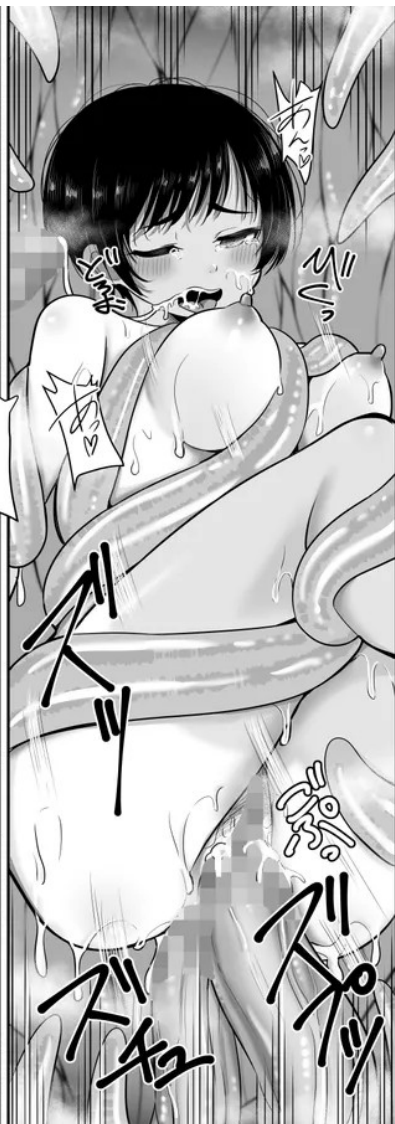


!!



この快楽に――









私をもっと強く先輩に忠告してたら...

そうだけどさ



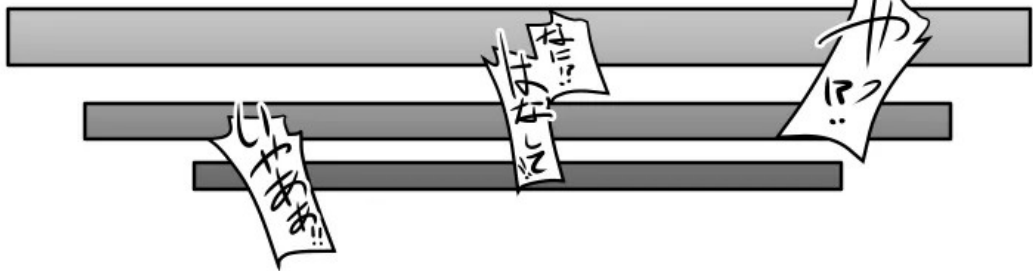
ねえ...
もう帰った方が...

...でも



あんたは悪くないって...

...でも!



いやあ...

なに...
はなに

か
!?



触の宴は終わらない...

終

「触宴」

作 海老パン/れんこんオクトパス

※この物語はフィクションです。
実在の人物、団体、事件等とは一切
関係ありません。

※本作品の無断転載、複製、インターネットへの
アップロードを禁じます。

ご購入いただき
ありがとうございました！

海老パン



れんこんオクトパス